

アムスルだより

No. 5 6 2002年 7月10日

Akajima Marine Science Laboratory 阿嘉島臨海研究所



〒901-3311 沖縄県島尻郡座間味村字阿嘉179

ホームページもご覧下さい。http://www.amsl.or.jp

TEL:098-987-2304 FAX:098-987-2875 E-mail:amsl@ryukyu.ne.jp



動くカイメン?

モクズシヨイ

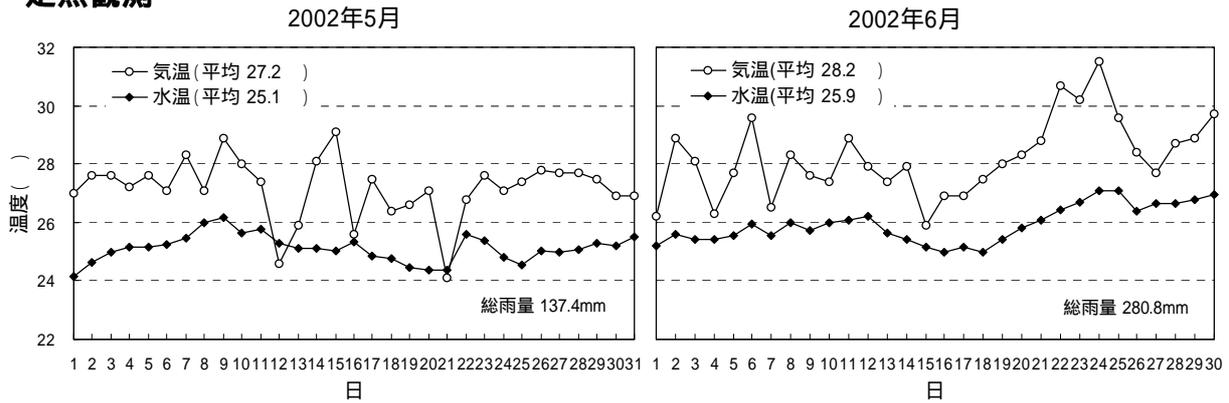
この夏も夜な夜なサンゴの産卵調査さんらんちようさに行っています。サンゴが卵を産めば、忙しいながらも楽しく泳ぎ回っているのですが、もちろん全く卵を産まない夜だってあるのです。調査としては、「産まなかった」ということも大事なのですが、やはり、海の中で少しさびしい気分になります。そういう時に、目を楽しませてくれるのが、エビ・カニ・ヤドカリの仲間です。昼間は、かげにひそんでいたこの仲間も、夜になると表を動き回るようになります。どこにかくれていたのか、大きなイセエビやゴシキエビしよっかくが触角をゆらしていたり、イソギンチャクをせおったサメハダヤドカリやカブトヤドカリが、ひょこひょこ歩き回っています。見ると、岩の上をゴミの塊かたまりが動いていました。波で動いているにしては不自然です。じっと見ると体中にゴミをつけたカニの仲

間でした。そこで、今回はこのカニを紹介しましょう。

このカニの名前は、モクズシヨイといいます。漢字で書くと「藻屑背負い」ですから、その姿どおりゴミを身にまとったカニということです。ゴミと書きましたが、石粒や軽石などその辺にあるいろんなものを身につけるらしく、実験では毛糸だらけのモクズシヨイにすることもできます。けれど、阿嘉島のモクズシヨイは、カイメンを背負っているものが多く、本当のゴミのようなモクズシヨイは見あたりませんでしたから、モクズシヨイにとっても、阿嘉島の海は、生き物の多い海なのでしょう。

どうやって、モクズシヨイはこの姿になるのでしょうか。モクズシヨイの甲らには、かぎ状の毛がたくさん生えていて、はさみ脚あしでつまみ取ったカイメンや海藻かいそうなどをこのかぎに引っかけてとれないようにするのだと言います。どうして、そうするのでしょうか？それは、やはりカムフラージュのためでしょう。モクズシヨイは、クモガニ類の仲間ですが、そのカムフラージュしたカニを、天敵てんてきであるタコといっしょに水槽に入れていても、食べられなかったという実験を行った研究者がいます。そして、別の研究者は、もともとは、あまったエサを毛につけてとっておき、あとで食べていたのだけれど、

定点観測



つけたままにした方が、天敵に食べられず生き残りやすかったために、「身につける」という習性が出来上がったのだらうと考えています。

慶良間の海には、そのほかにもものを背負って身をかかしているカニがいます。カイカムリやヘイケガニ（採集していないのはっきりとした種類はわかりませんでした）の仲間です。これらの仲間は、モクズショイと違って、ものを背負うのに脚をつかいます。カニは、はさみ脚をいれると10対の脚をもっていますが、これらのカニは、最後の2対の脚の先が、はさみのようになっていて、これでカイメンや貝殻などをはさんで背負っています。ちなみに、「カイカムリ（貝かむり）」といいますが、実際にはカイメンを背負っていることが多いようです。

カニの仲間には、ほかにもカムフラージュの得意なものやほかの生き物の力を借りて身を守るものなど、まだいろいろありますが、それは、またいずれお話ししましょう。海へ行ったら、妙な動きのカイメンや海藻などには、気をつけて、見てみてください。知恵をしぼって身をかかしているカニの仲間がもしもから・・・。

阿嘉島の海より

- 今後も続くサンゴの産卵 -

前回の「アムスルだより 55号」でサンゴの一斉産卵は5月27日あたりになるのではないかと予想しましたが、この日は渡嘉敷島のトカシクビーチで産卵があったようです。阿嘉島周辺ではその翌日の28日にヒズシや旧港内のサンゴが一斉に産卵し、さらに翌29日にはニシハマやクシバル、それから座間味島のニタなどでも産卵が確認されました。産卵の情報を頂いたダイビングショップのみなさん、ありがとうございました。産卵の晩には阿嘉小、慶留間小の子供達にも研究所に集ってもらい水槽内で産卵するサンゴを見てもらいました。

5月には、慶良間では代表的で最も数の多いミドリイシの仲間の多くが産卵するため、産卵の規模も大きくなり、それを目当てにダイバーもたくさん集まりました。でもサンゴの産卵は5月にしか見られないわけではありません。5月の産卵ほど規模は大きくはありませんが、6月の満月前後にもミドリイシ、その後にはキクメイシの仲間が産卵しました。種類によって産卵時期は違うのです。そして今月(7月)の満月頃にも産卵はあります。興味のある人は見に行ってみてはどうですか？